

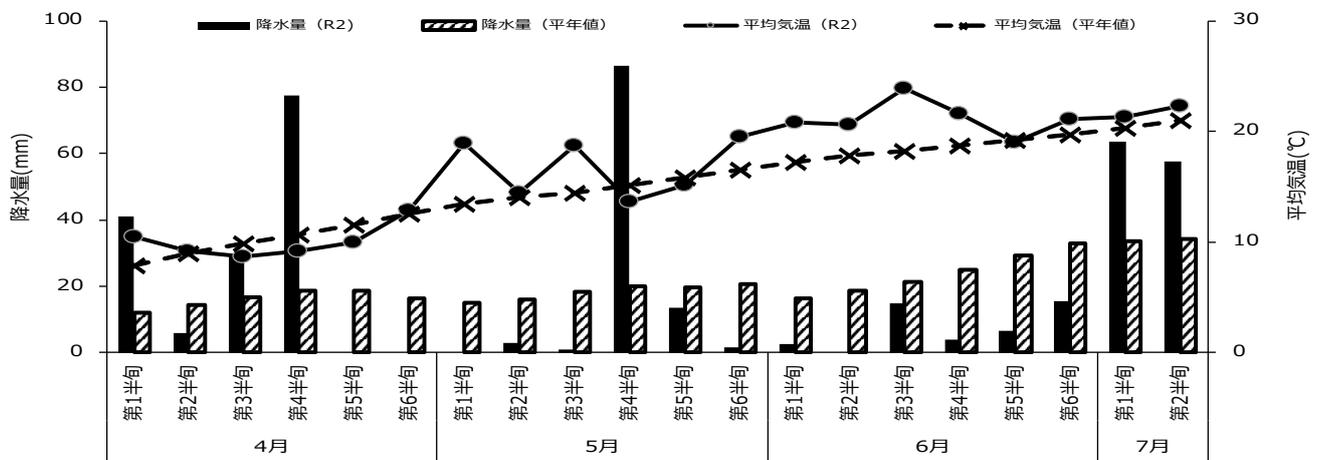
仙台稲作情報2020（第6号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷ 幼穂形成期に入りました。追肥は、稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷ 曇天が続いているので、ほ場を確認し、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ▷ 斑点米の発生防止のため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。

1 気象経過



2 管内の生育状況（7月10日の調査結果）

(1) 移植栽培

- ・ 草丈・莖数とも、一部のほ場を除き前年を上回る状況となっています。葉色は、前年より低く（淡い）なっていますが、概ね幼穂形成期の目安となる葉色を確保しています。
- ・ 1mm以上の幼穂長が確認され、「幼穂形成期」に入ったほ場があります。

品種	ほ場 (地帯区分)	田植 月日	草丈 (cm)			莖数 (本/m ²)			葉数 (枚)			葉色 (GM値)			幼穂長 (mm)		
			本年	前年 比%	平年 比%	本年	前年 比%	平年 比%	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台市宮城野区岡田 (仙台湾沿岸)	5/14	59.9	104	102	411	104	96	10.5	-0.3	-0.3	38.0	-5.5	-2.4	0.9	-0.4	0.0
	大郷町鶴崎 (北部平坦)	5/21	62.9	114	104	679	129	130	9.9	-0.5	-1.1	41.2	1.8	0.7	0	-1.5	-1.6
	仙台市泉区福岡 (西部丘陵)	5/15	60.5	99	-	433	84	-	12.1	0.4	-	41.5	-1.8	-	4.0	-1.4	-
	管内平均		61.1	106		508	105		10.8	-0.1		40	-1.8		1.6	-1.1	
ササニシキ	仙台市若林区長喜城 (仙台湾沿岸)	5/4	71.3	129	115	565	128	126	11.5	-0.2	0.4	42.2	-0.8	0.4	2.1	1.2	1.3
	大和町鶴巣 (北部平坦)	5/9	62.4	104	-	602	88	-	10.8	0.1	-	39.7	-4.1	-	2.1	1.3	-
	管内平均		66.9	117		584	108		11.2	0.0		41.0	-2.5		2.1	1.3	
だて正夢	仙台市若林区三本塚 (仙台湾沿岸)	5/25	63.9	113	-	487	121	-	10.7	-1.0	-	41.2	-1.3	-	0	-1.1	-
	大郷町土橋 (北部平坦)	5/16	66.5	107	107	489	118	118	10.3	-0.7	-0.4	40.4	-2.5	-2.9	0	-0.1	-0.8
	管内平均		65.2	110		488	119		10.7	-0.9		40.8	-1.9		0	-0.6	

※ 平年比差は、平成29年から令和元年の3力年平均

(2) 湛水直播栽培

草丈は65.4cm、莖数は596本/m²と前回より増加しています。葉数も前回調査より1枚増加して10.3枚となっており、生育は概ね良好です。

表 7月10日の調査結果

品種	ほ場 (地帯区分)	播種 月日	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM値)
ササニシキ	大和町桧和田 (北部平坦)	5/3	65.4	596	10.3	45.2

※今年度から調査ほ場及び品種を変更したため、本年値のみとなり、前年値、平年値はありません。

3 地帯別生育ステージの予測

宮城県米づくり推進本部による地帯区分別の生育ステージの予測は以下のとおりです。

※幼穂形成期：幼穂長1～2mm，減数分裂期：幼穂長30～120mm

表 地帯別生育ステージの予測（7月3日現在）

<北部平坦部> 出穂期 8月2日頃予想（平年値：8月2日）
--

地帯区分	田植時期 始期～終期	幼穂形成始期 始期～終期	減数分裂期 始期～終期	出穂期 始期～終期
北部平坦	5/2～5/19	7/2～7/11	7/12～7/21	7/31～8/7
南部平坦	5/3～5/19	7/2～7/10	7/12～7/20	7/31～8/6
仙台湾岸	5/3～5/23	7/2～7/14	7/12～7/24	7/31～8/9
西部丘陵	5/7～5/26	7/5～7/16	7/15～7/26	8/3～8/12
山間高冷	5/7～5/27	7/13～7/21	7/23～7/31	8/12～8/19

※出穂期の平年値は過去10か年（平成21～30年）のうち、最も早い年と遅い年を除いた8か年平均

※7月3日までアメダスデータ実測値使用，7月4日以降はアメダス平年値を使用

※対象品種「ひとめぼれ」「ササニシキ」「やまのしずく（山間高冷）」

4 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- 幼穂形成期から減数分裂期に、「日平均気温20℃以下」または「最低気温17℃以下」が数日続くような場合は障害不稔が発生する危険性が高くなります。
- 最新の天気予報（週間天気予報，2週間気温予報等）に留意し，低温が予測される場合には幼穂を保護するためにできる限りの深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期：水深5～10cm，減数分裂期：水深20cmが望ましい

(2) 追肥

- 葉色は今後低下することが予想されます。ほ場をよく観察して適切な追肥を行い，**穂揃期の葉色維持**に努めましょう。
- だて正夢は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり，追肥を抑えられがちですが，穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて適正な追肥を実施しましょう。
- ほ場により生育が異なるので，幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- 基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は，倒伏が懸念されるため，原則として追肥は行いません。

表 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	-10～0cm	15～10日

表 追肥の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5 kg
つや姫 まなむすめ	2.0 kg	—
だて正夢	— (茎数が少ない場合は1kg)	2 kg (幼穂形成期に1kg追肥した場合は1kg)

表 幼穂形成期及び減数分裂期の葉色期待値（葉緑素計によるGM値）

	幼穂形成期	減数分裂期
だて正夢	39～43	35～39
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
金のいぶき	33～35	30～32
つや姫	35～37	31～33
まなむすめ	35～37	36～38

（3）病害虫防除

①いもち病

- ・曇りや雨が多く、日照時間が少ない日が続いており、7月1日から葉いもちの「感染好適条件」が断続的に出現しています。
- ・今後、箱施用剤や予防粒剤の効果が低下し始める時期です。上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になるので、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・特に、窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見に努めましょう。
- ・また、追肥後は、一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・穂いもちの予防粒剤は出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。



進行型病斑

【参考】BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病害虫防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、発生に注意しましょう。
- ・病害虫防除所による発生予報6号では、発生量が「やや多」の予報が発表されています。
- ・前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。



病斑

③稲こうじ病

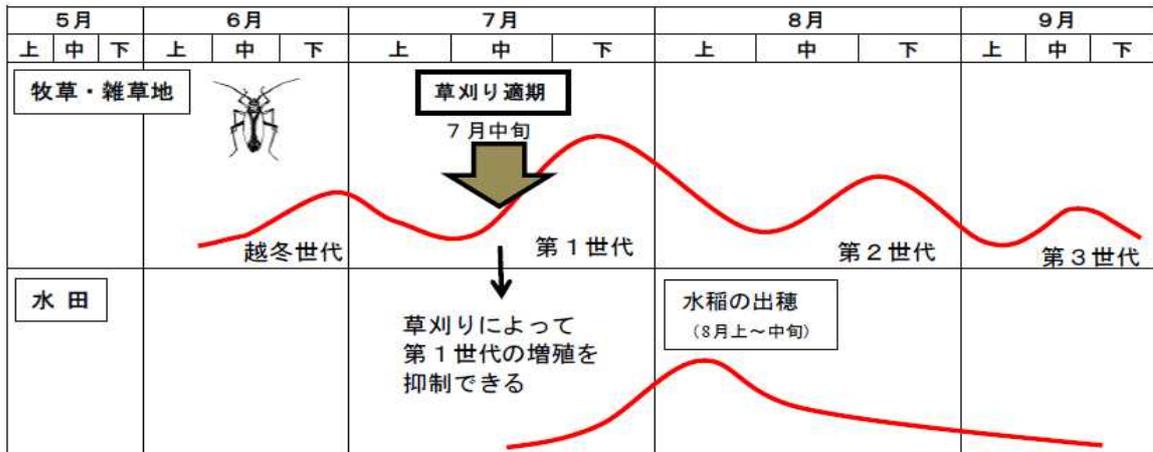
- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂20～10日前が散布適期です。



発病籾

④斑点米カメムシ類

- ・斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、7月中旬までに休耕田や土手・畦畔等の除草に努めましょう。
- ・水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため、**水稻が出穂する10日前までに終わらせましょう。**



⑤コバネイナゴ

- ・病害虫防除所の巡回調査（6/30～7/3）において、水田における発生量は平年に比べて多くなっています。
- ・齢が進んでからの薬剤散布では防除効果が低下するので、発生が多い場合は、3齢（1.5cm程度）までに、本田侵入盛期（7月上旬）を目安に防除しましょう。

湛水直播栽培

(1) 中干し

倒伏防止のため、田面に亀裂が入る程度に少し強めの中干しを実施し、土壌の硬度を高めましょう。中干し後の水管理は、1～3日程度走り水をしてから間断かんがいを実施しましょう。

(2) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が高く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすい傾向があります。ほ場を見回り、発病を確認したら直ちに茎葉散布を行い、発病が見られない場合は葉いもち予防粒剤を散布しましょう。

(3) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

防除適期は、第2世代の若齢幼虫が発生盛期となり7月下旬から8月上旬です。ほ場を見回り、発生が多い場合には防除を実施しましょう。

(4) 斑点米カメムシ類

移植栽培に比べて出穂期が遅れることから、散布適期を把握し実施しましょう。詳細は移植栽培の(2)病害虫防除④斑点米カメムシ類の項目を参考にしてください。

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/9仙台管区气象台発表）

予報のポイント

○期間の前半を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は、東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並か多いでしょう。

○向こう1か月の日照時間は、東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並か少ない見込みです。

■農薬危害防止運動実施中（令和2年6月1日から令和2年8月31日まで）

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第7号は、7月20日に実施する生育調査の結果をもとに7月21日頃の発行となります。